

外郭団体ミッション遂行評価票

【平成30年度取組結果】

団体名	北九州高速鉄道 株式会社
-----	--------------

所管課	建築都市局 都市交通政策課
-----	---------------

団体に対するミッション
公共交通機関として重要な役割を担う北九州モノレールの安全・正確・快適な管理運営を行うとともに、経営を安定化させる。

行財政改革大綱における見直し内容
沿線の少子高齢化等の進展による利用者数の減少や車両等大規模設備の更新など、今後も厳しい経営状況が見込まれるため、応分の受益者負担等も含め、中長期の経営計画を策定し、それに基づき、経営の安定化を図る。

ミッションに基づく中期計画

3~5年後に目指す状態	平成27年度策定の「北九州モノレール中期5か年計画」の推進に取り組み、経営基盤の強化を図る。
-------------	--

主な成果指標	年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）							
	H28	H29	H30		R1	R2	R3	R4
	実績	実績	目標	実績	目標	目標	目標	目標
運転事故の件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
経常黒字化への取組み（売上高の確保）	2,267 百万円	2,321 百万円	2,141 百万円	2,328 百万円	2,147 百万円	2,123 百万円	2,106 百万円	

ミッションの遂行状況の評価（平成30年度）

団体における評価	保安設備等の更新及び教育訓練を計画的に実施し、安全・正確・快適な運行に務め、開業以来の運転事故ゼロを継続できた。設備更新については、国の補助金を活用し、自主負担を低減するとともに、中期5か年計画に基く施策を着実に実行し、売上高の確保に努めた他、全駅フリーWi-Fi化等によるインバウンド対応のサービス向上、多客時における臨時列車の運行を行い、利便性向上に努めた。	市の評価	安全、安定輸送の維持及び向上を図るための保安設備等更新、教育訓練を計画どおり実施することにより、公共交通機関として最も重要な安全、正確、快適なモノレール運行を維持している。開業からの運転事故ゼロを継続は、公共交通機関としての役割を果たしている。 また利便性の向上を目的に、駅舎改善（フリーWi-fi化等）によるサービス向上、インバウンド効果や夏季イベントが順調に開催されたことにより、利用者が前年度を上回り、2年連続で黒字を計上したことは、不断の経営改善の効果が現れているものと評価している。
	今後の課題及び見直し内容（案）		平成27年度策定の「北九州モノレール中期5か年計画」に基き、安全安定輸送を確保するとともに、経営の安定化を図る。

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況

見直しの分類	特に経営状況を注視する団体
平成27年度策定の「北九州モノレール中期5か年計画（平成27年度～令和元年度）」により、経営の安定化に取り組んでいる。	